

2023年 7月 19日
日本建築学会千葉支所

建築文化に触れる

「日本大学生産工学部図書館 見学会」

(現：日本大学図書館生産工学部分館)

ここ数年、築50年程度の名建築が、老朽化や耐震性の問題などから全国で相次いで取り壊されていますが、1973年に建てられた日本大学生産工学部分館が「DOCOMOMO Japan (ドコモモジャパン)」に選定されました。

この建物は、建築家・大高正人と建築構造家・木村俊彦が取り組んだ意欲作で、当時、世界的にも最先端だったプレファブリーケーション(PC)部材の可能性を最大限に活かした空中架構式を採用している唯一の現存建築物の柱・梁が特徴的なその外観は、伝統的な日本の古建築を連想させます。

今回は、身近な建物の建築鑑賞を通して、「建築文化」への興味の醸成を図るため見学会を開催します。

お気軽にご参加下さい。

日 時 2023年9月1日(金) 10:00~12:00

場 所 日本大学図書館生産工学部分館 (習志野市泉町1)

講 師 日本大学生産工学部建築工学科
准教授 亀井靖子先生
教授 藤本利昭先生(構造)、准教授 三上功生先生(設備)

対 象 会員/一般/学生/他

定 員 40人(申込先着順)

資料代 ¥1,000

プログラム

- 1 千葉支所長挨拶
- 2 講師紹介
- 3 建物概要
- 4 館内見学(3班に分かれて)
- 5 質疑応答



- 日本大学図書館生産工学部分館は、高度経済成長期の日本の建築界をけん引した大高正人が、構造建築家の木村俊彦とともに取り組んだ、PC コンクリートの可能性を最大限に生かした代表的な建築である。既に取り壊されてしまった栃木県庁舎議会棟と同じ「空中架構形式」を採用している唯一の現存建築物で、現場打された鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)の大架構の上に、工場生産によるプレファブリケーション(PC)部材でくみ上げた3階部分を載せ、その下に2階部分を配置している。生産性や施工性の追求と同時に日本建築の美しさを継承した柱・梁構造は日本の古建築を連想させる。また、エントランスと書庫棟を中心とした左右対称性は、学びの中核である大学図書館としての象徴性をもつ。本建築は、大高が目指した「PAU」のP:プレファブリケーションの可能性の追求とA:アートアンドアーキテクチャーに求めた芸術性を実現している建物で、U:アーバンイズムについても、将来的に大学キャンパスが地域社会に還元された時のシンボルとして機能するように計画している。大高の一連の作品の中でも代表的なものであると同時に、当時のコンクリート建築の先駆的事例として継承するに値する優れた建築である。

問合せ先・申込先 **満員御礼（定員に達しました）**

（一社）日本建築学会関東支部千葉支所（担当：小島）

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5 建築会館4階 千葉県建築士会内

E-mail: koji3104@gmail.com TEL: 050-7126-3030（小島）

・参加希望の方は、下記 Google フォームよりお申し込み願います。

<https://forms.gle/9m1jDsHHphTQkMgn8>

- ・応募受付開始：2023年7月21（金）12：00
- ・応募締切り：2023年8月18日（金）12：00
- ・参加票は発行しませんので、直接会場へお越し下さい。
- ・個人情報第三者へ開示・提供はいたしません。
- ・体調のすぐれない方は参加をご遠慮ください。
- ・見学中はマスクの着用と消毒にご協力ください。
- ・各自で熱中症対策をお願いします。
- ・見学中は、委員及び案内者の指示に従うようお願いいたします。
- ・新型コロナウイルスの感染状況によっては中止の場合があります。
- ・公共交通機関でのご来場をお願いします。



主 催 一般社団法人日本建築学会 関東支部千葉支所
後 援 公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部千葉地域会
協 力 日本大学生産工学部